

公益財団法人

NO. 69 (2023. 10. 20)

三河郷友会会報

三河郷友会OB・OG会

〃 どうする家康 〃 ならぬ 〃 どうする三河寮 〃

理事長 中村 民雄

NHKの大河ドラマ「どうする家康」を見ておられる方も多いと思いますが、あまりにも歴史的史実からかけ離れ、生き様や価値観が現代と戦国時代とがごちゃごちゃになってしまっている。果てはロシアのウクライナ侵攻を批判するような瀬名（築山殿）の「慈愛の国計画」、これが失敗し瀬名と信康が自害させられても家康とその家臣団には受け継がれ、石川数正の出奔も瀬名が望んだ「慈愛の国」づくりのため秀吉への臣従を促したものとされた。果ては、北条氏政が籠城戦を行ったのも妹婿である今川氏真から瀬名の「慈愛の国」構想を聞かされ心奪われたためとし、関東の地を家康に託すなど、大河ドラマというよりもはやファンタジーの世界に入り込んでしまった感がある。

百歩譲って、ドラマだからと割り切って家康を題材とした安部龍太郎『家康（一）～（八）』（幻冬舎時代小説文庫）、火坂雅志『天下 家康伝（上・下）』（文藝春秋）、岩室忍『家康の軍師①～④』（朝日文庫）などを読んでみたがこれらとも大きくかけ離れており、今後、関ヶ原の戦い、大坂冬・夏の陣などもすべて瀬名の「慈愛の国計画」に収斂されてしまうのだろうか。

今後の展開と着地はそれとして、信長と家康は1560年の桶狭間の戦いの2年後、両国の国境を決める対等な清洲同盟を結び、互いの背後を気にすることなく領土拡張にすすみ、信長が本能寺で横死するまでの20年間破られることはなかった。ただ、対等とはいっても尾張と三河ではもともと経済力に大きな開きがあり、信長が勢力を拡大し「天下布武」を遂げるにいたっては、兄弟関係から、主君と家臣のような上下の関係性へと変化していった。

そんな清洲同盟下の尾張と三河の関係性は小生の学生時代でも色濃く残っていた。西尾市出身の百姓の小倅だった小生は「名古屋もんはこっすい」ということを古老からよく聞いた。逆に尾張からすると「三河もんはバカだ（融通が利かない）」と反論された。三河は農業国、土地にしがみついた「農本主義」。対して尾張は、東海道と中山道、木曾三川と伊勢湾を結ぶ熱田・津島の湊を抱え、流通経済が盛んな「重商主義」。そんな国づくりの方向性が「三河気質」として色濃く残っていたのかもしれない。

前置きが長くなりましたが、昭和49年（1974）4月に稲垣正浩氏から寮監を引き継いだとき、尾張寮（戦前の「愛知社」から、戦後は「愛知県人会」と名称変更）と三河寮（三河郷友会学生寮）は対等合併するはずのところ、第二期工事の補助金を愛知県が出し渋ったことから「どうする家康 〃 ならぬ 〃 どうする三河寮 〃 状態になっていたのです。

事の発端は、戦後東京に多くの学生が上京してきたため住宅難に陥った昭和30年代初頭、その解消策として文部省が打ち出したのが「1県1学生寮」構想です。これに応募すれば、頭金（補助金）150万円を出すというもので、昭和32年に尾張寮と三河寮はそれぞれが事業主体となって各50人収容できる学生寮を建築し、完成後は新しい法人（財団法人愛知県育英会）へ移行するという約束で事業をはじめ

ました。将来的には 250 人収容の学生寮にするもので、両法人が交わした覚書には「今後二年間のうちに、愛知県育英会の協力を得て、収容力最低限 50 人の新寮（三河側に）を建築」という付帯決議もされています（当時の尾張と三河の人口比から 150 対 100 は仕方ないのかな？）。三河郷友会はこの約束にもとづいて、国庫補助金（150 万円）を得て建築した 50 人寮を無償譲渡しました。これが旧館の入り口に掲げられていた「愛知県育英会窪町寮」の表札の由縁です。しかしその後、尾張寮には昭和 35 年に 500 万円、昭和 37 年に 400 万円＋名古屋市から 200 万円が支払われ、収容人数 150 人寮が完成しました。これに対し、三河寮へは何の音沙汰もなく結局約束は反故にされてしまいました。

補助金は支払われない旧館は無償譲渡するはで、これに業を煮やしたのが理事で岡崎市長の太田光二氏でした。それなら三河独自で百人寮を建築しようと 1 口 20 万円、100 口分を三河各市町村から募金し、昭和 39 年 4 月には新入寮生の入寮を開始しました。これが現在も残る男子館（かつての新館）です。なお、太田光二・岡崎市長は育英事業に熱心な方で、市独自に千葉県市川市と京都市に各 50 人、計 100 人収容の岡崎寮を建てています（現在はともに閉鎖されている）。

そんな経緯は何も知らず、稲垣さんから「寮では何もすることないから、ただ先輩として留守番してくれればいいから。」と言われたので軽い気持ちで引き受けました。4 月になり稲垣さんが作成した総会の議案書をもって鎌倉材木座にある小久保儀三郎理事長宅へ挨拶に行きました。すると小久保理事長から風呂敷包み（昭和 30 年代の議事録、合併関係の書類）と理事長印・角印を渡され、「君にすべて任せろ！何かあったら僕が責任とるから！」と言われ、「君らが考える自治寮を創りなさい。幸い寮生が提案した駐車場も開業できたし、土地を売ることもないし、愛知県育英会とも合併しないで自主独立でやっていきなさい。」と背中を押されました。一瞬「稲垣さん話が違うじゃん！」と思いましたが、「もう、やるしかない。」と腹をくくって鎌倉から引き上げてきました。寮に帰って早速、寮監として寮の自治寮構築を寮生と話し合い、予算の見直しから税務申告、法務局への役員登記、東京都への予算・決算書報告、築 20 年の中期修繕計画まで、留守番どころではないめまぐるしい 1 年がスタートしました。

そんなあるとき、愛知県東京事務所（都道府県会館内）から呼び出しがあり、「昨年来の物価高に対応して育英会と同じく寮費を値上げしろ！」と迫ってきました。他にも懸案事項があるので理事長も同席して欲しいと言われました。理事長に相談したところ、「僕の代理としてすべて対応しなさい。」と言われたので、理事長代理・寮監として出向きました。愛知県育英会側は宮地理事長、山本照評議員、後藤寮長（？）の 3 名おられました。もっぱら県の担当者が話をされました。開口一番、寮費の値上げが提案されました。この点では、就任早々寮生と予算の見直しや駐車場収入による大規模修繕・赤字補填について話し合っていたので、育英会側のように値上げする必要のないことを数字で説明しました。また、県側は昭和 32 年（1957）の「念書」や昭和 35 年（1960）の「覚書」で「合併」する約束じゃなかったのかと迫ってきました。これに対し、我々は「念書」や「覚書」に基づいて 50 人寮（旧館）を無償譲渡し「愛知県育英会窪町寮」としたにもかかわらず、「覚書」の第 2 項（収容力最小限 50 人の新寮建築）の補助金は未だ支払われていない。そんな中でも我々は、独自に募金して 100 人寮（新館、現男子館）を建てたし、名義上愛知県育英会となっている窪町寮（旧館）の住宅公庫への返済金も三河郷友会が支払っているのではないかと反論しました。「念書」や「覚書」の文言は出してくるが、第二期の補助金が払われなかった経緯について担当者は何も知らず、これ以上進展しませんでした。

これに対し小生からは、県側が合併・一体化を言うなら「現行の県費補助金に差（尾張寮 120 万円、三河寮 30 万円）があるのはなぜか？」と質問しました。これに対し県側は「当初予定の 250 人収容のうち、窪町寮名義となっている 50 人分がそれだ。」と言われました。小生から「ならば、独自に建てた 100 人寮分について補助金はないのか？」と尋ねたところ、「それは三河の市町村が負担すべきで県は関知

しない。」と、人口比どころか4対1は動かせないという。同じ愛知県民でも補助金に差をつけるという不公平はその後も続きました。また、入寮選考において「三河寮の選考を経ずに尾張寮で選考した人の中から窪町寮分として5~6人回してくるのは止めてほしい。」と要望しました。この件は翌昭和50年度選考から廃止されました。ただし、尾張出身者でも三河寮に直接願書を出してきた人については排除せず、選考を受けてもらっています（逆に、三河から尾張寮へはそれ以降受け付けてもらえませんでした）。また、親は三河出身でも現在別の地区に住んでいる人をすくい取るため、募集要項に「愛知県（主として三河部）出身者」となっているのはそうした配慮からです。

こうして、稲垣前寮監から引き継いだ「留守番」と言われた三河郷友会学生寮との関係は、愛知県・愛知県育英会の上から目線に対して何とか自主独立を保ってきた半世紀でした。

令和5年度の会費納入者一覧（令和5年4月1日～令和5年10月18日）

（金額を入れず、会費の種類・口数のみ書きますのでご了承ください。）

松澤 崇（普） 永田 雅克（普改1） 紅林 淳（普特） 南崎 仁志（普） 太田 博隆（普）
武田 正道（普） 上原 智史（普特） 早川 勝博（特） 鷹野 徹也（普） 浅田 信二（普）
高山 潤一（普） 加藤 盛芳（普） 竹内 義人（特） 増村 清人（普特改1） 藤澤 孝好（普）
岡田 夏実（普） 鳥居 延行（普特） 堀内 康平（普） 縣 誠司（普） 橋本 謙蔵（普）
佐橋 祐亮（普） 夏目 和人（普） 芦沢 次郎（普） 鳥居 裕貴（普） 小澤 洋介（普改2）
荒牧 功（改5） 松下 啓司（改1） 磯村 文太（特改5） 高木 謙介（普） 永井 寛（普）
都築 豪（普） 加藤 康雄（普） 岩佐 正輝（普） 近藤 昭典（普） 佐藤 公彦（普特改1）
服部 具明（普） 稲垣 光治（普） 河崎 吉廣（普改1） 南 孝三郎（普） 牧野 成憲（普）
神谷 知宏（普） 川澄 渚（普） 岩崎 仁（普） 味岡 秀樹（普特改1） 岡 花音（普）
高原 雅美（普特改1） 柴田 裕（特） 片山 到（普） 大竹 有二（普） 愛知 功（普特改5）
辻 稜一朗（普） 鈴木 乃菜（特） 伊藤 学（普） 米田 吉孝（普） 加藤 定彦（普）
青木 一正（普） 加藤 圭悟（普） 山本 玲（普） 大沼 敏行（普改1） 神谷 寿興（特）
山本 智永（普改1） 吉田 悠真（普特改1） 福間 淳（普） 清水 幹良（普特改1） 浅井 和彦（普）
徳倉 正晴（普特改5） 織田 航（普） 佐々木慎一郎（普特） 前田 稔（普） 前田 文彦（普）
片岡 大到（普） 加藤 博和（普） 榊原 都（普） 鈴木 敏彦（普） 鈴木 章悦（普）
鈴木 義久（普） 宮脇 正夫（普） 近藤 健太（特） 榊原 潤（普） 村松 誠（普）
平野 元（特2） 福井 康光（普特改2） 筒井健太郎（普特） 鬼頭 誠（普特） 菅谷 史緒（改1）
兵藤 雄之（普特） 柿澤 利彰（普） 寺嶋 隆（特改1） 神谷 基恒（特） 片岡 高文（普特改1）
榊原 邦恭（普） 原田 俊彦（普） 渡辺 時啓（普） 中村 民雄（普特改5） 川寄 直輝（普）
杉山 晃浩（普特） 白井 孝一（普） 山田 喬（普） 稲垣 裕章（普特改1） 杉浦 淳雄（普特2）
小川 源八（普） 伴 謙吾（普） 曾田 邦義（普） 石田 康雄（普） 竹内 精司（普改1）
杉浦 康志（普） 古澤 龍平（普） 長濱 隆（普） 山本 将史（普特） 中瀬 康博（普）
吉見 卓郎（普） 末廣沙也香（普） 宮田 春紀（普） 山口 賢治（普） 岩月 一詞（普）
横山 泰久（特） 大島 一夫（普） 内田 肅（普） 鈴木 一元（普） 古田 瑠衣（普）
鈴木 宏征（普改1） 後藤 彰彦（普特改1） 夏目 俊信（普特改1） 石川吉之助（普特） 谷川 憲三（普）
深津 繁人（普） 磯村 真人（普） 工藤 芳男（普） 大林 市郎（普特改1） 千速亮太郎（普）
山崎 宣典（普特改1） 内藤 友也（特） 成瀬 重行（普） 榊原 琢也（普） 富田 直輝（普）
山田 渉（普特） 荻野 寿喜（普2） 山中 賢一（普） 松井 敏夫（普改1） 鈴木 昭雄（普特）

杉浦 芳博 (特7改7) 大坪ひろし (普特) 前田 茂伸 (特2改1) 大谷 重信 (普) 小嶋 邦昭 (特)
宮田 卓明 (特2改5) 山田 真己 (普改2) 磯谷 洋 (特) 小野寺雅史 (普改1) 藤田 和之 (普改1)
川崎 英輝 (普特改1) 伊藤 貴司 (普) 後藤 清司 (特)

(普) : 普通会費 (特) : 特別会費 (改) : 改築積立金 数字 : 会費の口数縣

令和5年度会費納入のお願い

三河郷友会OB・OG会会則第3条(本会は、三河郷友会学生会館OB・OG会員相互の交流と友情を深めるとともに、公益財団法人三河郷友会に対する維持運営に財政援助することを目的とする。)にもとづき、令和5年度の会費をご納入下さいますようお願いいたします。

なお、同封の郵便振替(00150-8-27434 三河郷友会OB会)で現金入金の場合110円のが加算料金がかかりますのでご了解ください。また、「男子館改築積立金」5口(10万円)以上のご寄付を考慮しておられる場合は、ご面倒をおかけしますが下記のOB・OG会事務局宛てにその旨ご一報くださいますようお願いいたします。

普通会費 3,000円

特別会費(1口) 5,000円

男子館改築積立金(1口) 20,000円

* (公益財団法人三河郷友会で「改築改修積立金」として積立てます)

創立百年史(残部僅少) 7,500円

* なお、普通会費・特別会費で繰越金が出た場合、公益財団法人三河郷友会へ寄付し、「特定費用準備金(改築改修積立金)」に計上します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜あ と が き＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

新型コロナに翻弄された3年間でしたが、5月の連休明けには第5類に位置づけられ、ようやく日常が戻ってきました。幸い小生は三河もんのバカ正直で6回のワクチン接種を済ませていましたので今日までコロナに感染することもなく会報の原稿を書いています。

なお今回、愛知学生会館(通称・尾張寮、戦前までは「愛知社」といった)との確執を書いた背景は、『公益財団法人三河郷友会会報』第58号(2018.5.10)でも明らかにしたとおり、明治11年3月に設立された尾張寮の前身「愛知社」は、「愛知」と銘打ってはいるものの、規則をみると「本社ハ尾張出身学生ヨリ組成シ其交誼ヲ厚シ品行ヲ正シ学業ヲ励サン為メニ設クル者トス」(第1条)となっており、三河は眼中にないことがわかります。設立者も徳川義親・徳川義恕・加藤高明三氏の名前が上がっており、尾張徳川家の肝いりでできたこともわかります。そんな経緯もあって、戦後になっても愛知県、愛知県人会など「愛知」と銘打ってはいるものの、まだまだ尾張(名古屋)中心史観が色濃く残っていたことをNHK大河ドラマ「**どうする家康**」から感じた次第です(半世紀も前・・・)。

(理事長 中村民雄)

OB会事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川5-19-37

公益財団法人 三河郷友会内

info@mikawagoyukai.net

<http://www.mikawagoyukai.net>

TEL 03-3946-0342 (館長: 酒井)